資金調達に関するご説明

2026年11月20日

株式会社ペルセウスプロテオミクス

（証券コード：4882）

01 会社概要

企業理念

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する

画期的な抗体医薬品を一つでも多く開発し、世界の医療に貢献することが私たちの使命です。

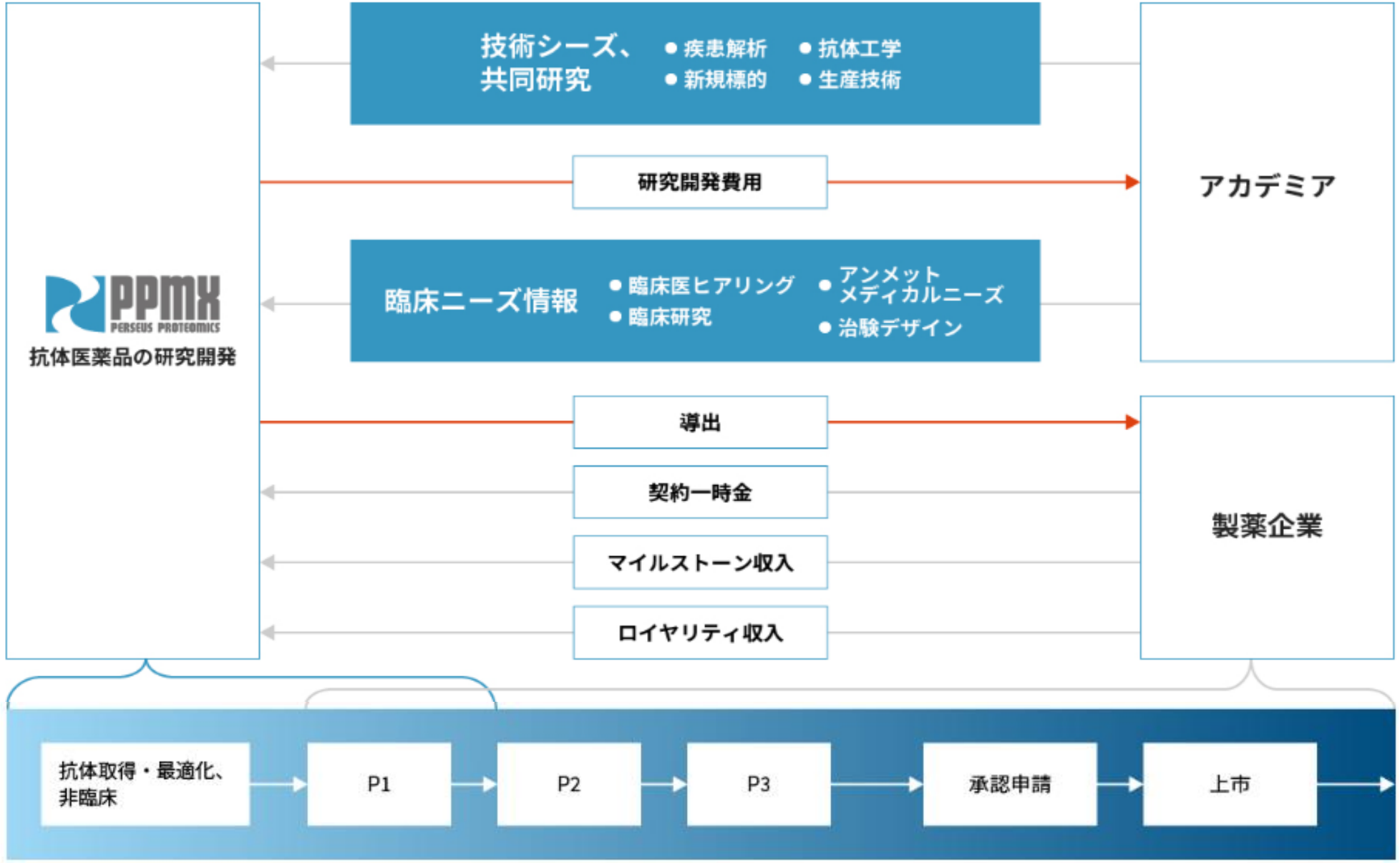


会社概要

社 名	株式会社ペルセウスプロテオミクス（略称：PPMX）
設 立	2001年2月
事業内容	●抗体医薬品の創薬・開発　●抗体研究支援　●抗体・試薬販売
証券コード	4882
拠 点	本社・ラボ：東京都中央区日本橋箱崎町30-1 名古屋ラボ：愛知県名古屋市千種区千種2-22-8
資本金	854百万円*
従業員	３５名*（臨時従業員は含まず）

＊ 2026年9月30日現在

事業モデル


技術シーズ、
共同研究
● 疾患解析
● 抗体工学
● 新規標的
● 生産技術
研究開発費用
臨床ニーズ情報
● 臨床医ヒアリング
● 臨床研究
● アンメット
メディカルニーズ
● 治験デザイン
導出
契約一時金
マイルストーン収入
ロイヤリティ収入
PPMX
PERSEUS PROTEOMICS
抗体医薬品の研究開発
アカデミア
製薬企業
抗体取得・最適化、
非臨床
P1
P2
P3
承認申請
上市

開発パイプラインの状況

開発コード	標的	対象疾患	創薬研究	非臨床試験	Phase1	Phase2	備考
PPMX-T003	TfR1	PV[1)]	導出活動中				
		ANKL[2)]	医師主導治験				AMED *
PPMX-T002 (RIT[3)])	CDH3	固形がん	治験終了[4)]				** 富士フイルム株式会社
			導出活動中[5)]				

1) 真性多血症　2) ｱｸﾞﾚｯｼﾌﾞNK細胞白血病　3) 放射性同位体標識抗体　4) RI:^{90}Y　5) RI:^{225}Ac

＊　AMED 創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業の支援を受けて医師主導治験を実施中
＊＊　当社が創出。富士フイルム株式会社が米国にて進行性固形がん患者さんでの第Ⅰ相試験を実施したが、事業方針の変更により、2022年3月に実施権が返還

創薬パイプラインの状況

No.	モダリティ	標的	対象疾患	抗体ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ系構築	抗体取得	抗体最適化	非臨床試験	提携先
1	ADC [1] (PPMX-T004)	CDH3	固形がん					UBE
2	BsAb [2]	非公開	血液がん					中部大学
3	BsAb [2]/ADC [1]	非公開	固形がん					非公開
4	ADC [1]	非公開	固形がん					NCCJ National Cancer Center Japan
5	naked [3]	非公開	消化器系疾患					NCCJ National Cancer Center Japan / 名古屋大学 Nagoya University

1) 抗体薬物複合体　2) 多重特異性抗体　3) IgG抗体

最近約半年の進捗

02 第31回 新株予約権の概要

第31回 新株予約権の概要

第31回新株予約権	
割当日	2026年12月8日
割当予定先	マッコーリー・バンク・リミテッド（以下「マッコーリー」）
潜在株式数	4,600,000株（2026年9月30日現在における発行済株式総数18,429,500株に対し24.96%）
発行価額	総額　1,334,000円（新株予約権1個あたり29円）
調達予定額	459,534,000円（差引手取概算額）（注）
行使期間	2026年12月９日～2028年12月８日（2年間）
当初行使価額	102円
行使価額の修正	行使請求の効力発生日の直前取引日東証終値の92%に相当する金額に修正
下限行使価額	56円（発行決議日直前取引日（11月19日）の東証終値の50%に相当する金額）

（注）差引手取概算額は、本新株予約権の払込金額の総額に、本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額から、本新株予約権の発行に係る諸費用の概算額を差し引いた金額となります。なお、本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。行使価額が修正又は調整された場合には、調達予定額は増加又は減少します。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、調達予定額は減少します。

第31回 新株予約権による資金使途及び支出予定時期

1. 研究開発資金

400百万円

支出予定時期
2027年7月~2029年3月

(i) PPMX-T004の研究開発資金 70百万円

PPMX-T004は、エンジニアリングバッチ の製造及びGLP対応（GLP試験の医薬品開発業務受託機関への委託）を進めており、第31回の資金調達による調達資金から70百万円を充当することを予定しております。なお当該費用の総額は170百万円であり、100百万円は第29回新株予約権発行の調達より充当します。

(ii) 創薬パイプラインの開発資金 280百万円

創薬パイプラインの開発及び当社独自の抗体技術の研鑽に係る費用（98百万円）並びに研究員の人件費（182百万円）として、280百万円の充当を予定しております。2027年6月までの開発活動を継続し、次世代の創薬技術開発におきましては、シングルBセルプラットフォーム技術の高度化を進め、より効率よく医薬品向けの高い品質の抗体を取得できるようにします。さらに抗体技術をさらに高め、他の製薬会社と共同研究開発も進め、新たな領域や新たなモダリティへの対応開発力を強化する研究に資金を充当してまいります。

(iii) AIハイブリッド創薬の開発資金 50百万円

当社はこれまで実験科学により抗体取得と抗体最適化を行っております。最近は抗体を構成する膨大なタンパク質のアミノ酸配列、構造や機能をAI技術により解析・分析し、抗体取得や抗体最適化のプロセスを大きく短縮、効率化できる技術開発が進んできております。当社は独自技術であるPPMX抗体ライブラリ２を用いた独自のデータと最新のAIを組み合わせたAIハイブリッド創薬技術の開発により、抗体医薬分野でのAI活用を進めるハイブリッド創薬開発に50百万円を充当します。2027年6月までにAIプラットフォームの選定や技術検証を進めていき、2027年７月以降順次実用フェーズに入ることを計画しております

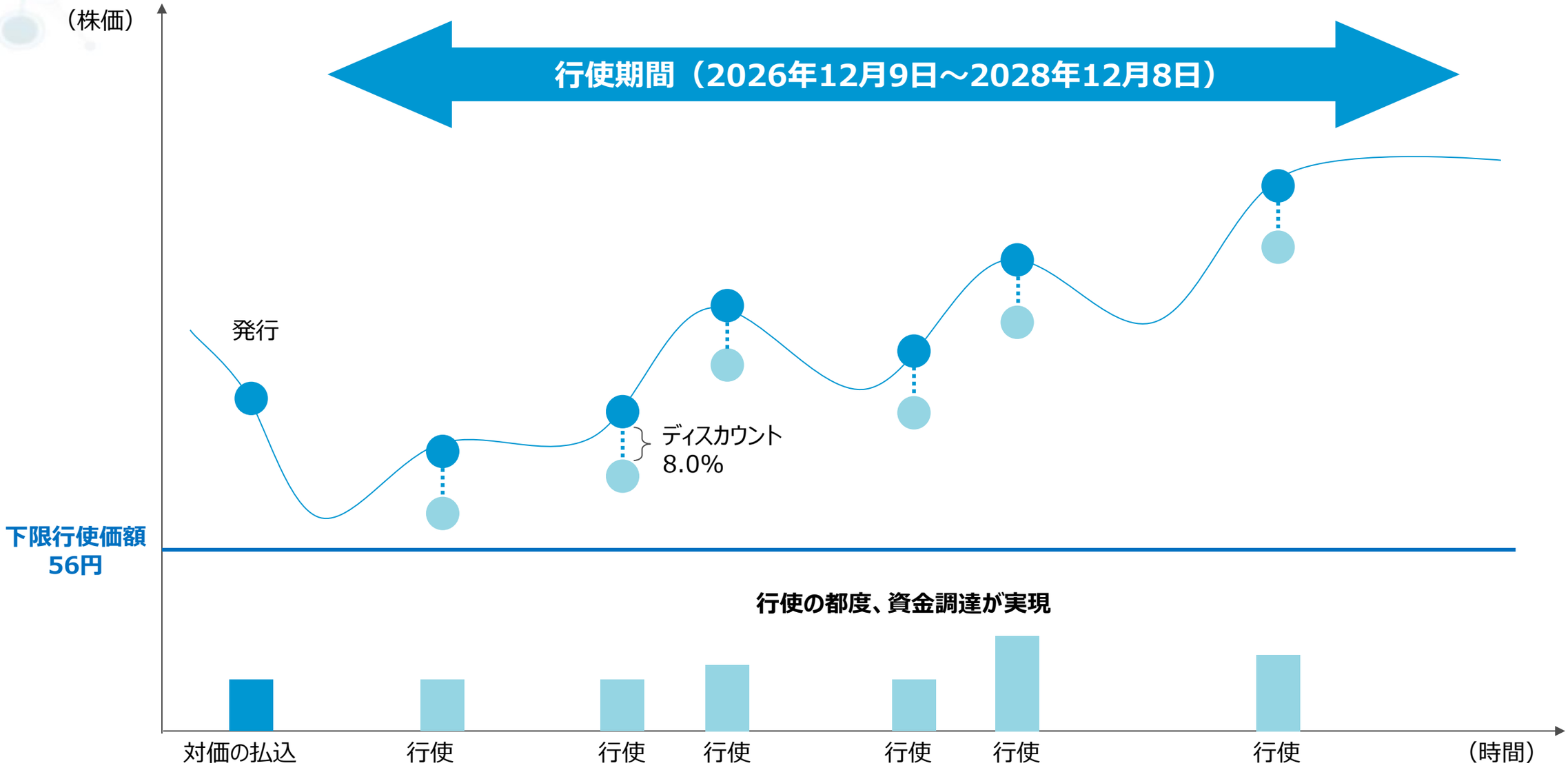
2. 運転資金

59百万円

支出予定時期
2027年7月~2029年3月

＊ 研究開発に関する用語の説明は、19頁を参照ください

第31回 新株予約権による資金調達のイメージ



（注） 上記はイメージであり、当社株価が上記のとおりに推移すること及び割当予定先により本新株予約権が行使されることをお約束するものではありません。

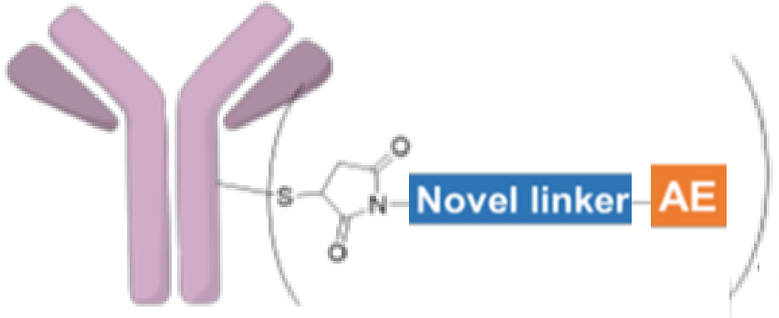
資金使途 ①-(i)：PPMX-T004の研究開発資金

PPMX-T004の概要

PPMX-T004の経緯

- CDH3を標的とするADCとして、UBE㈱と創薬
- CDH3に強く結合した後、がん細胞内に効率よく取り込まれるように設計
- マウスによる実験で高い抗腫瘍効果を確認（右図）
- 非GLP毒性試験は、予定通り2026年9月に終了

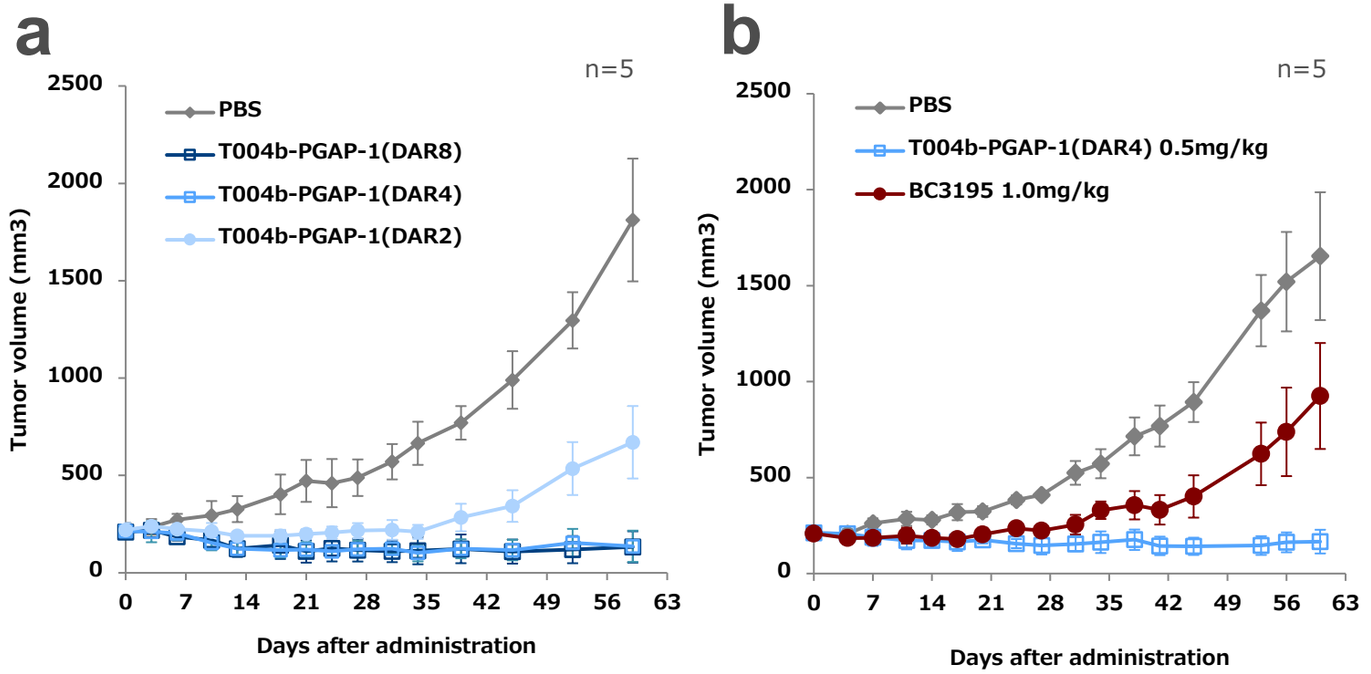
PPMXT-004の構成



抗体　リンカー　低分子抗がん剤

PPMX PERSEUS PROTEOMICS　UBE　UBE

PPMX-T004bのDAR*違い（DAR2、DAR4、DAR8）及び競合との薬効比較の結果



(a) Tumor growth following single dosing at day 0 in BxPC3 xenograft mouse models with different DARs.

(b) Comparison of tumor growth with preceding ADCs.

＊ Drug Antibody Ratio (抗体1分子あたりの薬物結合数)

資金使途 ①-(i)：PPMX-T004の研究開発資金

支出予定時期

PPMX-T004
工程タイムライン

	2026年1月～	2027年1月～	2028年1月～ 2029年3月
実施			
● 予備毒性試験	～2026年9月		
計画中			
● MCB*の委託準備及び製造 ● エンジニアリングバッチの製造		2027年1月 ～ 2029年3月***	
● GLP毒性試験の CRO** 委託準備		2027年8月 ～ 2029年3月	

＊MCB：マスターセルバンク。製造の起点となる細胞株の凍結保管ロット

＊＊CRO：Contract Research Organization（医薬品開発業務受託機関）

＊＊＊第29回新株予約権による資金調達でも本費用の一部を充当する。

資金使途 ①-(ii)：創薬パイプラインの開発資金

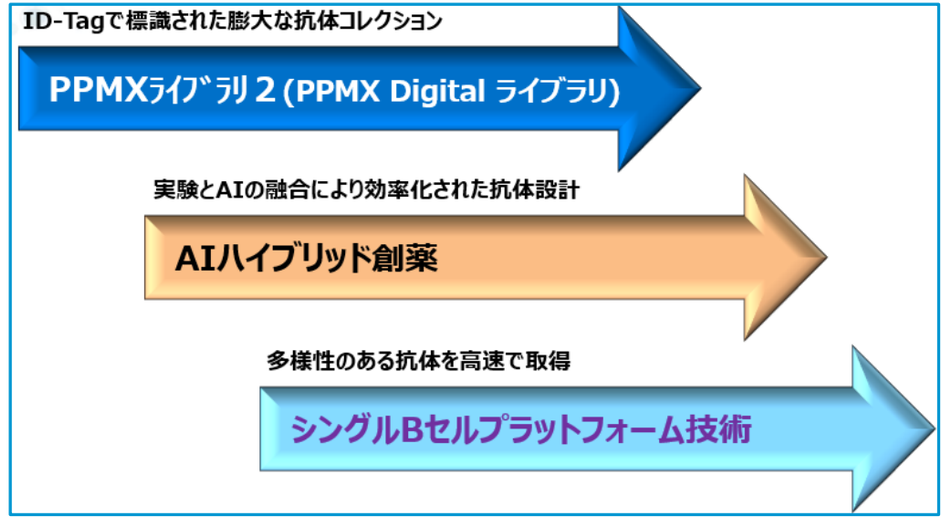
創薬パイプラインの開発に係る費用

- 抗体取得後の最適化（親和性･選択性･安定性の改変、次世代抗体フォーマットへの展開）
- in vitro/in vivo 薬効･毒性評価、動物モデル（外注含む）整備

当社独自の抗体技術の研鑽に係る費用

- 次世代技術開発：
  -PPMXライブラリ2 × AIの「AIハイブリッド創薬」
  -「シングルBセルプラットフォーム技術」の高度化
  -高品質抗体取得と医薬品適性を両立する in silico 最適化基盤の共同開発（アカデミア,企業）

事業活動を加速させるコア･コンピタンス



＊　研究開発に関する用語の説明は、19頁を参照ください

資金使途 ①-(iii)：AIハイブリッド創薬の開発資金

実験科学による戦略

基盤技術

・ハイブリドーマ
・ファージディスプレイ
・シングルBセル



AI による強化

萌芽技術開発

・抗体を新しく創造
・親和性を改善
・物理的性質を改善

抗体取得・抗体最適化を効率化
創薬プロセスを短縮

抗体スクリーニング系構築 → 抗体取得 → 抗体最適化 → 非臨床試験

＊　研究開発に関する用語の説明は、19頁を参照ください

第29回 新株予約権による資金使途及び調達金額実績

サマリー

- 実調達額：705百万円（当初想定930百万円）
- 充当完了時期：当初の2028年3月充当完了予定から、2027年6月充当完了予定に修正

資金使途　予定額及び変更後

	当初想定 2026年１月～ 2028年３月	変更後　2026年1月～2027年6月 総額	2026年１月～ 2026年９月 充当額	2026年10月～ 2027年６月 充当額
総額	**930**	**705**	**262**	**443**
①研究開発資金　（ⅰ～ⅲ計）	**632**	**506**	**162**	**344**
ⅰ．PPMX-T004：GLP対応及び GMP治験薬製造準備	150	100	0	100
ⅱ．創薬パイプラインの開発、 当社独自の抗体技術の研鑽、 研究員の人件費等	482	406	162	244 ☆
②運転資金	**298**	**199**	**100**	**99**

☆2026年10月～2027年6月においてAIハイブリッド創薬の研究開発に50百万円を充当し開発を加速します。

成長戦略：協働による拡大

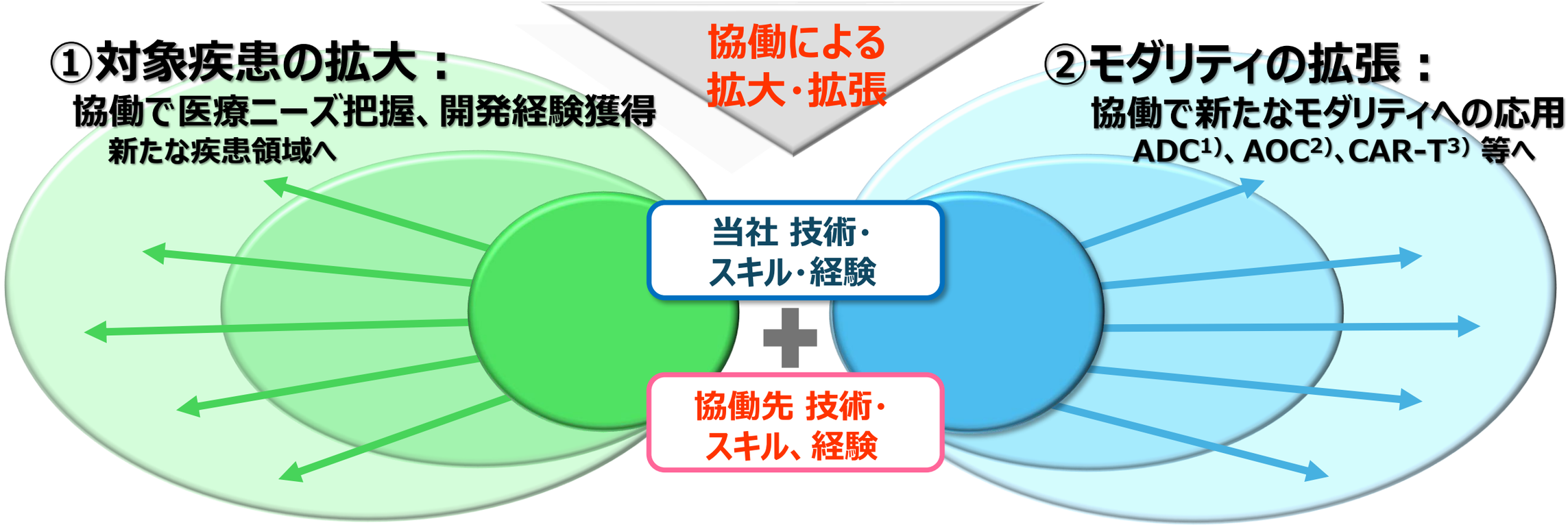
自社リソース

・PPMXファージ抗体ライブラリ(ヒト、VHH)
及びICOS法を強みとした抗体取得技術
・がん対象の抗体評価、非臨床、臨床開発経験

協働による
拡大・拡張

①対象疾患の拡大：
協働で医療ニーズ把握、開発経験獲得
新たな疾患領域へ

②モダリティの拡張：
協働で新たなモダリティへの応用
ADC[1)]、AOC[2)]、CAR-T[3)] 等へ



1) 抗体薬物複合体　2)抗体オリゴヌクレオチド複合体　3)キメラ抗原受容体T細胞

成長戦略：当社のカテゴリー

創薬　当社の中核

自社リソース創薬
- がん等の疾患を対象
- 抗体医薬品を研究開発、導出

新たな疾患
新たなモダリティ
→ 協働による創薬事業拡大

将来
大きな成長

抗体研究支援

- 研究機関、企業等へ
- 抗体に関する研究を支援

共同研究

抗体・試薬販売

- 研究機関、企業等に
- 各種の抗体・試薬を販売

安定的
収益源

研究開発用語の説明

No.	用語	説明
1	GMP	「Good Manufacturing Practice」の略。製造所における製造管理、品質管理の基準を指します。
2	GLP	「Good Laboratory Practice」の略。非臨床試験において、試験施設の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)」。
3	in vitro	試験管や培養器等の中でヒトや動物の組織を用いて、体内と同様の環境を人工的に作り、薬物の反応を検出する試験のこと。
4	in vivo	マウス等の実験動物を用い、生体内に直接被験物質を投与し、生体内や細胞内での薬物の反応を検出する試験のこと。
5	シングルBセルプラットフォーム技術	個々のB細胞が産生する抗体の特性を解析し、目的とする抗体（例：高親和性や特異性の高い抗体）を効率的に発見・取得するための技術です。
6	in silico	コンピュータを使ってシミュレーションやデータ解析を行う、生命科学や薬学分野の研究手法。

03　新株予約権に関するQ&A

Q&A（1/3）

No.	Question	Answer
1	新株予約権とは何ですか。	新株予約権とは、発行会社に対して行使することにより、発行会社の株式の交付を受ける権利です。 新株予約権の割当予定先であるマッコーリーが新株予約権を行使すると、当社は行使価額相当の金銭の払込を受け、同社に当社普通株式を交付します。これにより、当社は資金調達及び資本増強を行います。
2	PPMX-T003とT002の2つの導出活動を実施している中で、なぜ今資金調達を行うのですか。	当社は2026年9月末現在で1,420百万円の現金及び預金を保有しておりますが、2027年3月期第2四半期累計期間の営業損失は412百万円です。また、PPMX-T002及びPPMX-T003の導出に向けた活動を行っておりますが、現段階では導出に伴う収益は見込んでおりません。 当社の医薬品事業の持続的な成長のためには、現在導出活動中のパイプラインに続く新たなパイプラインの創出が必須です。このため、当社は、研究開発資金と運転資金への充当を目的として、459百万円の資金を確保したいと考えております。

Q&A（2/3）

No.	Question	Answer
3	この方法のメリットは何ですか。	① 行使価額が各行使請求日の直前取引日の終値の92%に相当する金額に修正され、上限行使価額の設定がないため株価上昇時には資金調達額が増加する可能性があります。 ② 継続的な株価の上昇が見込まれる場合において当社が不行使期間を設定することや当社の判断で株価への影響を抑えることができます。 ③ 資本政策の変更が必要な場合には、契約条件に基づき残存新株予約権を取得することにより、希薄化を防止できるほか、資本政策の柔軟性が確保できます。
4	この方法のデメリットは何ですか。	① 割当予定先の当社普通株式に対する保有方針は短期保有目的であることから、割当予定先による当社普通株式の売却により当社株価が下落する可能性があります。 ② 当社株価が下落した場合、株価に連動して行使時の払込価額が下方修正されるため、実際の調達額が調達予定額を下回る可能性があります。ただし、行使価額は下限行使価額を下回ることはありません。 ③ 割当予定先がマッコーリーのみであるため、不特定多数の新規投資家から資金調達を募るという点において限界があります。

Q&A（3/3）

No.	Question	Answer
5	割当予定先としてマッコーリーを選定した理由は何でしょうか。	当社は、間接金融からの調達のみならず、直接金融からの調達も含め、資金調達方法について検討しましたが、マッコーリー・グループに属するマッコーリーキャピタル証券会社及びマッコーリーからの資金調達のストラクチャー・基本条件の提案、その後の面談の過程で設計されたスキームが、当社の資金調達ニーズを満たすものであると判断し、また、マッコーリーのこれまでのグローバルな活動実績や保有方針等を総合的に勘案し、マッコーリーを割当予定先として選定しました。
6	2025年12月に発行を決議した第29回新株予約権による資金調達の状況を教えてください。	第29回新株予約権により、想定調達額935百万円のうち、705百万円を調達いたしましたが、研究開発及び事業運営を目的として2027年6月末時点までに全額充当する予定です。

【お問合せ:】
Email: ir@ppmx.com
TEL: 03-6264-8224
FAX: 03-3668-7776
https://www.ppmx.com

本資料は、2026年11月20日に当社が公表したプレスリリース「第三者割当による第31回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及び新株予約権買取契約の締結に関するお知らせ」の補足説明資料として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。

本資料には、将来についての予想や見通しが含まれておりますが、当社として、その達成を約束するものではありません。これらは現在当社で入手可能な情報に基づいて作成しており、経済や医薬品業界の動向などにより、変動する場合があります。